

黒石の文学碑を探訪

黒石は、藩政時代から短歌・俳句などの短芸活動が盛んで、その伝統が今日まで綿々と受け継がれ、九十五基の句碑や歌碑などが随所に点在している「文芸の里」です。

特に、松尾芭蕉の句碑は、青森県内の約三割に当たる最多の九基を占め、往時の俳句界の盛況ぶりを物語っているほか、近年、黒森山浄仙寺の「文学の森」や中野神社の「川柳の杜」には、関係団体による句碑・歌碑が盛んに建立されています。この機会に、ぜひお訪ねください。



中野もみじ山 句碑・歌碑

- 大町 桂月 ・ひとしほの木の葉は散りて散り残る
楓の山の美しきかな
- 井上 日石 ・龍おどるがに山霊の光冷かな
・水韻神に応ふ秋光盛ん那梨
- 高松 玉麗 ・浄く生きる心たゝかふ秋の風
- 小林不浪人 ・あきらめて歩けば月も歩き出し
・動中に静を求めて煙草の輪

その他 黒石川柳社ミニ句碑31コ



交通のご案内



◆飛行機で

- 東京-青森 (1時間10分)
- 大阪-青森 (1時間30分)
- 名古屋-青森 (1時間20分)
- 札幌-青森 (45分)

◆路線バスで

- 黒石-青森空港 (30分)

◆高速バスで

- 東京-青森 (9時間30分)
- 仙台-青森 (4時間50分)
- 盛岡-青森 (3時間)

◆フェリーで

- 函館-青森 (3時間40分)
- 室蘭-青森 (7時間)

◆お車で

- 黒石IC (10分)
- 青森から (60分)
- 弘前から (35分)

◆JRで

特急で約2時間30分
特急で約2時間
特急で約1時間
特急で約1時間
特急で約30分
私鉄で約30分
特急で約12時間30分
新幹線で約2時間56分(最速)

お問い合わせは

黒石温泉郷宿泊観光案内所

- 〒036-0412 黒石市大字袋字富山65の1 TEL 0172(54)8622
- (社)黒石観光協会
- 〒036-0307 黒石市大字市ノ町5の2 TEL 0172(52)3488
- 黒石市農林商工部商工観光課
- 〒036-0396 黒石市大字市ノ町11の1 TEL 0172(52)2111



中野もみじ山・散策マップ



黒石温泉郷県立自然公園観光案内図

中野神社の境内から続く紅葉山は、あたり一面があざやかな紅葉で覆われ、中野川の溪流と織り成す自然美は、昔から景勝の地として多くの行楽客に親しまれてきました。

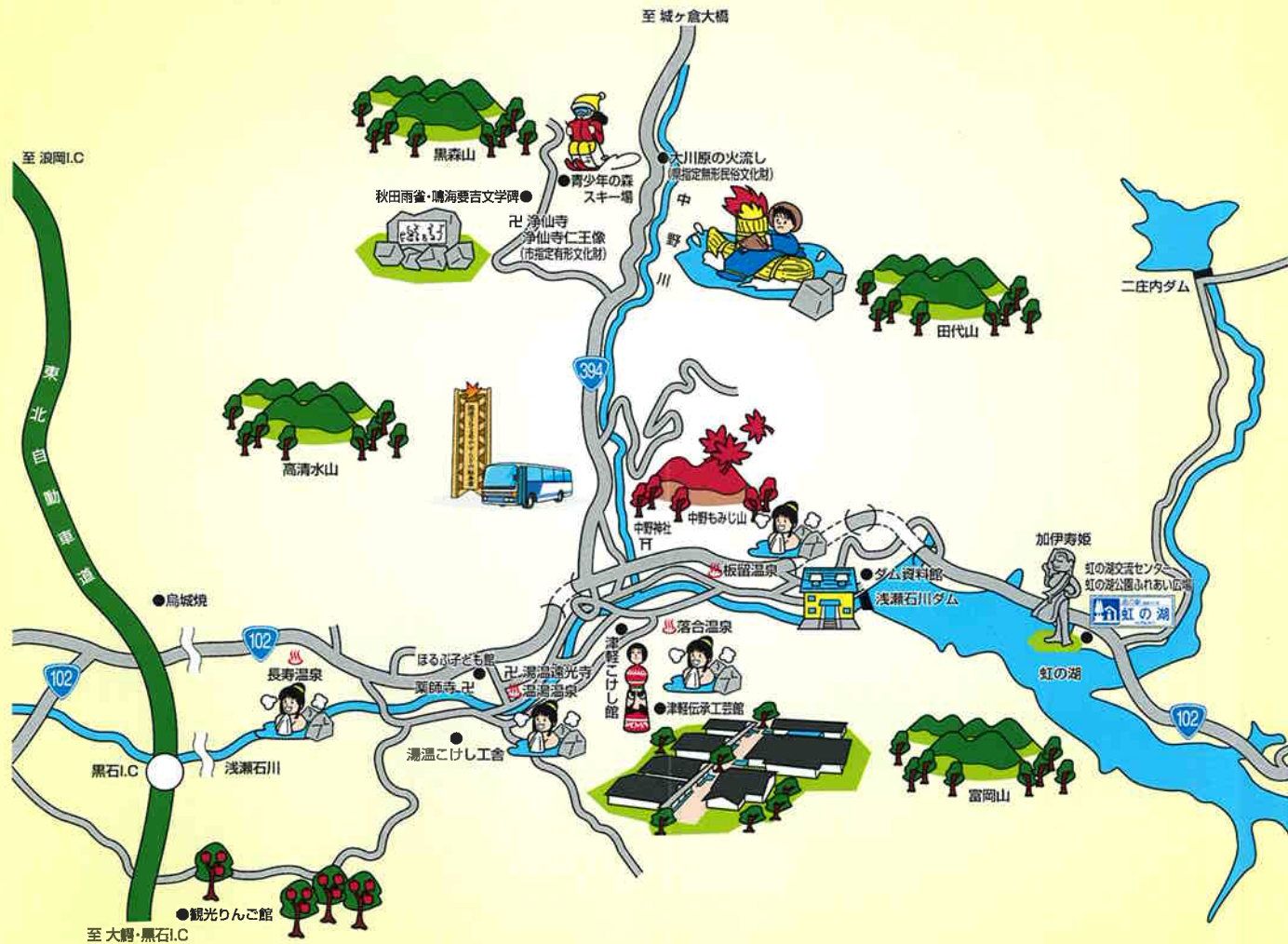
中野神社は、延暦19年(800)に、坂上田村麻呂が蝦夷平定の際、建立したと伝えられ、この地が永く安泰であるようにと日本武尊を祀ったとされています。

このもみじは、弘前藩主津軽寧親公(やすちか)が、享和2年(1802)に、温湯村に一泊した際、中野山のもみじや不動の滝に魅せられ、京都からかえでの苗木約100本を取り寄せ、中野不動尊に奉納。翌年、3本のもみじの苗木を移植しました。

以来有名になり、京都の紅葉の名所である「嵐山」に対し、「小嵐山」と呼ばれるようになったと伝えられています。

神社の境内には、このもみじ3本のほか、大杉3本、もみの木2本が昭和58年に市の天然記念物に指定され保護されているほか、約44基の川柳句碑なども建立されています。

また、碓ヶ関村の国上寺、黒石市の長谷沢神社とともに、「津軽三不動」のひとつに数えられています。



中野もみじ



楓並木

つり橋 A

楓の森

観楓台 B

スギ大木
樹齢600年

スギ大木
樹齢500年

中野神社

不動の滝 E

大町桂月
文芸碑

楓と花の広場

4
行き止まり

やすらぎの
駐車帯

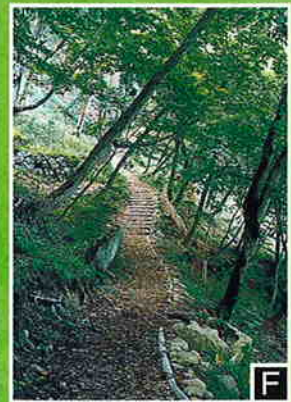
国道394号

トイレ



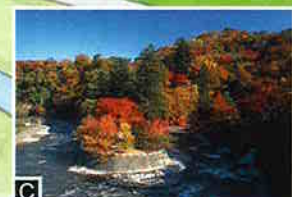
山散策マップ

| | |
|---------|--------|
| ①～②～③ | 約 170m |
| ③～④ | 約 205m |
| ③～⑤～⑥ | 約 735m |
| ⑥～⑦～⑧～① | 約 245m |
| ⑥～⑨～⑩ | 約 125m |
| ⑩～⑪ | 約 250m |
| ①～⑧～⑨～⑩ | 約 250m |



中野もみじの散策マップ

| | | |
|---------|-------|------|
| ①～②～③ | 約170m | 約5分 |
| ③～④ | 約205m | 約3分 |
| ③～⑤～⑥ | 約735m | 約30分 |
| ⑥～⑦～⑧～① | 約245m | 約10分 |
| ⑥～⑨～⑩ | 約125m | 約7分 |
| ⑩～⑪ | 約250m | 約10分 |
| ①～⑧～⑨～⑩ | 約250m | 約8分 |



中野神社の境内から続く紅葉山は、あたり一面があざやかな紅葉で覆われ、中野川の溪流と織り成す自然美は、昔から景勝の地として多くの行楽客に親しまれてきました。

中野神社は、延暦19年(800)に、坂上田村麻呂が蝦夷平定の際、建立したと伝えられ、この地が永く安泰であるようにと日本武尊を祀ったとされています。このもみじは、弘前藩主津軽寧親公(やすちか)が、享和2年(1802)に、温湯村に一泊した際、中野山のもみじや不動の滝に魅せられ、京都からかえでの苗木約百余種を取り寄せ、中野不動尊に奉納。翌年、3本のもみじの苗木を移植しました。

以来有名になり、京都の紅葉の名所である「嵐山」に対し、「小嵐山」と呼ばれるようになったと伝えられています。

神社の境内には、このもみじ3本のほか、大杉3本、もみの木2本が昭和58年に市の天然記念物に指定され保護されているほか、約44基の川柳句碑なども建立されています。

また、碓ヶ関村の国上寺、黒石市の長谷沢神社とともに、「津軽三不動」のひとつに数えられています。

津軽こけし館
津軽伝承工芸館
駐車場

